

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

ゆばら

日付

平成20年1月15日
特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員

在宅介護経験15年

評価調査員

ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

設立した最初の1年間は、2つのユニットへの利用者の入居、管理者の交替等で落ち着かない状態の中で、不安定なホームの運営だった。今年度に入って、母体法人の内容も変わり、代表者がホームの施設長として運営に携わり、管理者も新たな気持ちでケアとサービスに取り組んだ結果、年末の外部評価の時期では、1年足らずの経緯の中で飛躍的な前進が見られた。主な改善に寄与している点をあげてみたい。

代表者と管理者の関係が、ホームの運営の基盤を作った。その基盤は「心のつながり」ではないかと思う。代表者は温泉旅館の女将で、父の認知症介護で病院や施設での扱いに苦杯を嘗(な)めさされて、父のためにホームを作った経緯があり、介護の大切さが分かっている。又、職業柄、客や従業員に対する心掛けの必要性も身につけている。管理者は保育士として活躍し、子供への対応を心得ている。この結び付きは、本人同士は意識しているかどうか分からないが、利用者や職員への心配り等自然に出てくるのだろう。代表者は管理者を信頼し、日常の業務は任せている。管理者は代表者に報告したり、相談して、意志の疎通はできていると推察できる。

代表者はホームの運営について「難しく考えず、ホームでは皆が家族なんだから、仲良く思いやりを持って暮らせたなら良いと思っている。でも一旦引き受けた以上、幕引きまできちんと見てあげたい。看送って良かったねと言える介護をしたい」と話す。管理者も同感だと考えている。職員も協力するだろう。

職員が気持良く働いており、退職しない。皆で良くしていこうとの意識が強く、チームワークが強固になっている。

このような管理者や職員の中で暮らしている利用者も自然と安心して明るくなり、自分の思うままに生活することができる。

認知症になっても、一人の人間として尊敬しているので、介護の基本となる介護計画を作成する過程や介護・生活記録の中に人間味を感じる。管理者と職員の工夫の結晶である。

上記の事は、全て人間の心の通じ合いにつながり、このホームが何となく暖か味を感じる由縁だろうと思う。ますます磨きををかけていってほしい。

特に改善の余地があると思われる点

ここまで来て、またかと思うかも知れないが、もうひと頑張りして、職員と利用者、家族を結ぶ心の通じ合いを具体的な形にしてみませんか。今作り出した介護計画と記録の様式と着眼点をもう少し変えて、利用者がこのホームで生活している様子が、介護計画と記録を見ると一見して理解できるようなストーリーを見たい。利用者の24時間の一つひとつを生活要素と捉え、そこに必要な介護項目とモニタリングの様子を見れば、その人の生活のシナリオが、カンファレンスと記録を見ると生活ストーリーが読める。ホームでの暮らしの期間を見ると、その人の人生物語に感動できると素晴らしいと思う。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：最初にあった理念を基に、職員で相談しながら今の理念を作ったので、分かり易く、日常のケアの中で実践しているので、現時点での改善の必要はない。</p> <p>2. 全体的に見て…：「人間としての尊厳を重視し、入居者に対して強制せず、自由を重んじていこう。自立を促す為の介護を基本として、常に目くばり・気くばり・心くばりで介護に努めよう」が職員皆で作った理念である。管理者は「相手の立場に立って、利用者の気持ちを考え、自分だったらこうして欲しいと思う支援をしよう」といつも職員に話している。先が読めない利用者だからこそ後悔する介護をしないよう、あの時あすれば良かったと後悔が残らないよう、日々の関わりを心を込めて大切に積み上げていきたいという。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：広々としたホームの建物であり、上下2階に2つのユニットがある。2階はベランダがあり、布団や洗濯物を干すが、利用者もベランダで楽しく過ごせるようにしたいと考えている。</p> <p>2. 全体的に見て…：湯原温泉に行く手前に市立温泉病院があり、そのすぐ近くにホームがある。周辺は田園地帯と山裾で、一寸歩けば遊園地や川がある絶景の中にあって、自然の中に囲まれた環境である。利用者はリビングルームから伸びた廊下の東西の端にある窓辺の椅子に座って、仲間といつまでも話している個人の生活の場がある。リビングルームでは、食事や家事の手伝いを三角巾と割烹着を着て皆で作業をする。各自の居室では、自分の思い思いの生活をしている人が多い。各々の生活を楽しんでいる。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることに配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：約1年で、介護計画と記録の改善ができ、職員の工夫の結晶の光を見ることができた。家族が見て、良く分かると言ってくれた。又、心の乱れていた多くの利用者も今は落ち着いて生活している。この状態を維持していけば良い。</p> <p>2. 全体的に見て…：介護計画や記録は管理者と職員が遠慮ない言葉と意見を出して良いものに仕上げ、職員同士の意見交換を活発にして利用者が生活しやすいよう支援している。又、利用者の得意なところを活かして役目を持ってもらって、それぞれの人が自分の仕事をしながら、生きがいを感じてもらっている。この仕事はこの利用者の仕事と、利用者自身も自覚して行動している様子が色々な場面で伺えた。そこに利用者の記憶力も維持でき、表現でき、能力も養われていくことが良く分かる。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：新しくこの地域にホームを作ったので、地域との交流を積極的にできるよう、職員が率先して地域に出向くようにしている。利用者も地域の催しで参加し、散歩しながら近隣の人との馴染みをつくっている。</p> <p>2. 全体的に見て…：代表者・管理者・職員の連帯はしっかり出来ていて、ホームの運営や利用者・家族へのサービスにも努力している。ホームの中がある程度安定してくれば、次は家族の関係をどのように構築していくか、そして地域の中にどのようにホームの力を出していけるかも考えていかなければならないだろう。運営推進会議の開催を活用して、その会議の内容を例えば認知症を地域で考える機会に拡大して行って、地域の人々と共に高齢化社会のことを考えていく推進力になれば将来が楽しみになるだろう。急がずゆっくりと進めていけば良いと思う。</p>		